

EGFR 阻害剤における皮膚症状

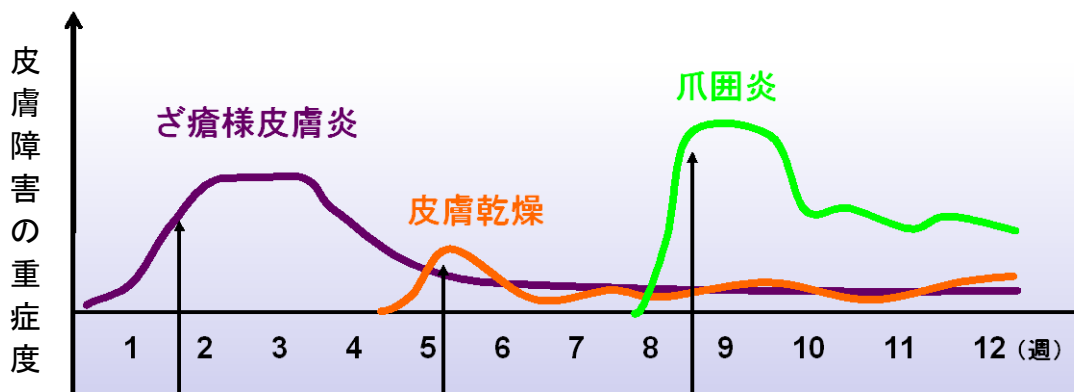
EGFR 阻害剤(アービタックス・ベクティビックス)による治療では主に皮膚や爪に副作用があらわれることがわかっています。

- にきびのような発しんや吹き出もの
- かゆみ
- 皮膚の乾燥やひび割れ
- 爪の周りの炎症
- など

重い副作用の場合は本剤の投与を一時中止する必要があります。

主な皮膚障害の発現時期

※下図はEGFR阻害剤による典型的な皮膚障害とその発現時期について示したものです。



皮膚症状を予防するために

- ・ EGFR 阻害剤による皮膚障害は皮膚の毛穴がつまることで悪化するおそれがありますので、皮膚を清潔に保つようにしましょう。
- ・ 入浴時にからだを洗う際には刺激の少ない石鹸を使用し、熱いお湯での入浴やシャワーを避け、ぬるめのお湯を使用しましょう。また、シャワーや入浴後には保湿剤を塗布し乾燥を防ぐようにしましょう。
- ・ EGFR 阻害剤による皮膚障害は日光にあたることで悪化するおそれがあります。EGFR 阻害剤による治療期間中は、日焼け止めなどを塗る、帽子をかぶる、長袖の服を着るなどして、日光をなるべく避けるようにしてください。

〔参考文献〕

アービタックス注射液 100mg の治療を受けるあなたへ (p16: ルクセロ/株式会社, ブリストル・マイヤーズ株式会社)
大腸癌治療におけるセツキシマブ(アービタックス)のすべて (p72-73: メディカルビュー社)
ベクティビックスによる治療を受ける患者さんへ (武田薬品工業株式会社)
ベクティビックスに関連する皮膚障害と対処法 (武田薬品工業株式会社)

●ざ瘡様皮膚炎



症状の程度に差はありますが、ほとんどの方に認められる症状です。抗がん剤の治療を開始してから数日～1週間頃になると、顔や上半身に、にきびのような皮疹ができることがあります。また、投与後1～2週間頃が最も強い症状が出やすいと言われています。かゆみや痛みを伴う症状が続いている場合は、症状にあわせて塗り薬、飲み薬を使います。治療を続けていくことで、かゆみや痛みの症状は軽快する場合があります。

●皮膚乾燥



抗がん剤投与後3～5週間以降に、皮膚が乾燥することがあります。保湿クリームなどを使います。また、6週間以降になると、赤切れのように皮膚にヒビが生じることがあります。

●爪囲炎



抗がん剤投与後4～8週間以降に、手足の爪全体に炎症が起こります。痛み、爪の発育障害を伴い、ひどいときは爪が巻き込んで、肉芽ができたり化膿することがあります。